

イノベーションを創出する ソーシャル・コラボレーションと テクノロジー



PROVISION 89号 コンテンツ・リーダー

日本アイ・ビー・エム株式会社
ソーシャル事業部
技術理事 (IBMディスティングイッシュト・エンジニア)

行木 陽子 Yoko Nameki

インターネット上では、FacebookやLINE、Twitterなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を利用したコミュニケーションが爆発的な広がりを見せています。いつでもどこからでも簡単に情報にアクセスできるスマート・デバイスの普及により、活用の幅も広がりました。今、多くの企業が、この「ソーシャル」の仕組みにビジネス・チャンスを見だし、新たな領域への挑戦を加速しています。

宿泊施設をシェアする「Airbnb」や自動車をシェアする「Uber」に代表される「シェアリング・エコノミー」はその最たるもので、情報交換だけではなく個人が保有する遊休資産(スキルのような無形のものも含む)の貸し出しを仲介する新しいビジネスとして注目されています。同時に、従来では想像もできなかった革新的なビジネス・モデルの市場参入が、既存企業の脅威となっています。

誰もが気軽に参加でき、意見を言い、つながることができるネット環境が、さまざまな事象に影響を与える「力」を持つ時代になりました。これま

では限られた人だけが持っていた「力」を、ソーシャル上で情報発信することで手に入れ、人を動かし、企業や政治にまで影響を及ぼすようになってきたのです。

また、ソーシャル上で展開される消費者の日常生活に密着した情報は、ビッグデータ・テクノロジーを駆使して分析され、商品開発や風評判断、リスク検知など、多様化する「個客」ニーズに対応できる新たなビジネス・モデル創出のために活用されています。例えば、オンライン上のさまざまな活動履歴を使ってユーザーの信頼度を総合的にスコア化するサービスも提供され始めています。

人が持つ能力や情報を、つながりを生かして顕在化し拡散するソーシャルのメカニズムは、旧来的な企業の情報共有のあり方を刷新し、イノベーションを創出する土壌へと誘う新たなコラボレーション基盤としても期待されています。個人や組織のパフォーマンスに影響する「社員エンゲージメント」を高める手段としても有効でしょう。



IBMが現在、最も注力している領域の一つが「SoE(Systems of Engagement:協働のための情報活用システム)」です。20世紀には、トランザクション処理を中心とする業務の効率化を進めてきました。しかし今、わたしたちが目指しているのは人が最大限に能力を発揮し、その能力をつなぐことで価値を創造し、ビジネスを推進できる仕組みです。コグニティブ・コンピューティングの実用化は、ソーシャル・コラボレーションにさらなるビジネス変革の可能性をもたらします。コンピューターが、ソーシャル上のさまざまな情報を理解し、重要なインサイトを導き出し、人が物事を判断し実行するための適切なアドバイスを提供することができれば、イノベーションにつながる価値創造をより効果的に実践できるでしょう。ソーシャル上の活動の一つひとつから生み出される大量の非構造化データはコグニティブ・コンピューティングの進化の源泉であり、企業内ソーシャルに蓄積された情報は貴重な知見の宝庫として活用されることになるのです。

社員の能力を最大限に引き出すために、イノベー

ションを実現するために、企業は今何をすべきなのか——。この問いに答えるべくPROVISION89号では「ソーシャル」を特集しました。

本号では、「IBM Connections」などのソーシャル・ツールを活用した企業ソーシャル・コラボレーションの実現とその価値、企業においてソーシャル浸透のために必要なこと、蓄積されたソーシャル・データの分析手法やビジネスへの適用例、コグニティブ・コンピューティングのコンセプトをもとに「IBM Connections Cloud」や「IBM Verse」に実装される最新ソリューション、そして、「人」が中心である組織において最も重要である、ソーシャル時代における社員エンゲージメント管理など、お客様のインタビュー記事や社員による執筆記事を通して、さまざまな視点から考察しています。

多様化するニーズに応え、グローバル競争時代を勝ち抜き新たな価値創造を実現するために、「ソーシャル」を活用したイノベーションと一緒に挑戦していきましょう。ソーシャル時代の到来、今がまさにその時です。